

滞在型研究員報告書（様式2）

（2008 年 9 月策定）

国立天文台滞在型研究員の方には期間中の成果について報告をしていただくことになっております。このフォームに記していただき期間終了 2 週間以内に国立天文台研究支援係にご提出ください。なおこの報告書は研究成果の論文掲載前でも研究交流委員会の web 上に公開いたしますので、研究内容の詳細について記入していただく必要はありません。この研究の成果を学術誌等で発表するときはその旨を謝辞に記載してください。

所属 鹿児島大学大学院 理工学研究科

氏名 中原 聡美

受け入れ 氏名：本間 希樹

滞在期間 2013 年 9 月 12 日～ 2013 年 10 月 11 日

I. 滞在型研究員として国立天文台滞在中に行った活動について簡単にお書きください。

- ・ VERA 22・43GHz 位相補償データの解析手法を国立天文台研究員の秦さんや、学生の秋山さんから学び、低光度 AGN M84 について解析を行い、電波マップを作成した
- ・ M84 の解析によって得たデータから得られるサイエンスについて、天文台スタッフの本間准教授、永井さん、秦さん、学生の秋山さんと議論
- ・ ALMA workshop に参加
- ・ VERA User's Meeting に参加（ポスター発表・マイク役）
- ・ 学生の秋山さん、千田さん、酒井さんと論文・天文学の教科書の輪講ゼミ参加
- ・ 詳報ゼミ参加（発表者：国立天文台萩原さん）

II. 今回滞在型研究員として得られた成果について簡単にお書きください。

- ・ 43GHz VERA データの解析における、細かい手法やテクニックについて直接指導を受け、技術を身につける事ができた
- ・ 滞在前に準備していた解析結果と、滞在中に行った解析の結果について本間准教授や天文台スタッフの永井さん、秦さん、学生の秋山さんらと議論し、解析結果から得られるサイエンスについて学んだ
- ・ 行った解析の結果と、天文台スタッフや学生の先輩方と議論したサイエンスから発表用ポスターを作成し、VERA User's Meeting で発表した
- ・ 自分が今回解析した M84 は、これまで VERA では観測されてこなかった光度の低い AGN であるが、VERA によるジェットの検出が可能なことを示す事ができた

III. この制度についてなにか御意見がありましたら、なんでも記入ください。

直接天文台スタッフの方々から指導を受ける事ができ、とても有意義な滞在でした。地方大学の学生にとって非常に助けとなる制度なので、今後ともぜひ続けてほしいと思います。